

に にこにこ笑顔で

い いつもみんなで

つ 紡ぎ繋げる心で

に 日本一をめざすのだ

知らないふりするのも時には愛情！

いよいよパリオリンピック・パラリンピックが開幕しました。当校卒業生の原わか花さんが出場する7人制ラグビーの予選も始まり、その活躍を心から期待するばかりです。

さて、今般のオリンピックに関わり、女子体操代表選手の出場辞退が話題になりました。本校長だよりを毎回読んでいただいている内の3名の方から、奇しくも同じコメントが私に寄せられました。

「周囲から愛され・応援され・励まされるような人間・集団づくりを目指している校長先生にとって、今回の件をどう捉えていますか？」というような内容です。

ネットやテレビを賑わせている話題で、有名人やそれなりの社会的立場にある皆さんがそれぞれの自論を述べているようですが、その詳細については把握していません。真実がどうなのかもわかりませんし、さして興味はありませんでしたので、何ともコメントのしようがないのですが、仮に、彼女が私の愛すべき教え子で、問題が発覚する前に自分のところに相談に来たとしたら、多分、次のような話をすると思います。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

「とにかく事実を話すんだ。酒とタバコのこともちろん事実なら、その詳細について包み隠さず話すのだ。そして、自分がこれまでどれほど体操を愛し体操に打ち込んできたのか、どれほど人一倍努力してきたのか、日本女子体操界の期待を一身に背負ってそれがどれほどのプレッシャーでありストレスがあったのか。それは、決して周囲からの同情を引くためのものでもない。それが事実なら事実として熱く語れ。

その結果、オリンピックに出場できようができまいが関係ない。されどオリンピックかもししれないが、たかがオリンピックだ。オリンピック出場が人生のゴールではない。

もし、出場できたとしたら、今回の件で迷惑をかけた人の分まで頑張ればいい。出場できなければ、そのやるせなさをバネに、もう一度自分を見つめ直して新たな目標に向かって頑張ればいい。世間がどう納得するかではない。君がどう納得するかだ。一度や二度の取り返しのつくような失敗や過ちで、その人間のすべてが否定されるわけではない。君が、本当に周囲から愛され・応援され・励まされるに値する人間かどうかは、これからの生き方次第だ。」と。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

結局最終的に、今回の体操の彼女は、オリンピックの出場を辞退しました。何の客観的事実も事情もわからない中、単なる推測で私見を述べさせていただくならば、出場辞退は仕方ないことだと思っています。

それは、彼女は酒・タバコは1回のみだと主張しているようですが、本当にそうなのかと疑義を抱くからです。これまで長年にわたって子どもの数々の問題行動に関わってきた経験値からすると、飲酒・喫煙・万引きが発覚したのに、今回が初めてのことです、などということはほとんどありませんでした。夜中に集団で酒・タバコのドンちゃん騒ぎをして、その場にみんなと何時間もずっと一緒にいたのに、自分だけはしてません、などということはほぼあり得ないのです。

スピード違反をした人間が、その時だけたまたまスピードオーバーして運悪く警察に見つかった。それはたまたま運が悪かったのではないのです。あなたが、それ以外の時もスピードを出し過ぎていることがあるからなのです。

つまり、彼女の酒・タバコの実績が問題ではありません。彼女が嘘をついていると私は思うのです。それでアウトです。私もSNS上の野次馬と同等の輩だとお叱りを受けそうですが、あくまで、経験上からの推測の域を出ない私見だと思ってご容赦願います。

それにしても、SNS等の影響もあって、昨今は、世間の耳目を集める話題があると、当事者に関係のない第三者が騒ぎ過ぎのような気がします。今回の件も、彼女に根本的な責任は当然ありながら、精神的に未熟な未成年の彼女をそういった環境から守れなかったこと、彼女が必要以上のバッシングを受けているのは、周囲の大人

や無責任な世間の風潮だと思っています。今彼女のために一番できることは、そっとしておいてあげることです。やってしまったことは元には戻らない。でも、取り返しがつくことなら、晩回ややり直しが効く寛容で優しい社会であってほしいものです。

学校でも、生徒の飲酒・喫煙はもちろんのこと、何か大きな問題行動を起こしたりすると、保護者に学校に来てもらって事情を説明し、家庭での今後の本人への指導・見取り・見守り等をお願いする場合があります。その結果、事の重大さにもよりますが、保護者が家庭に戻って、子ども本人にどのような対応をするかは、その時々、様々な事情でまちまちだと思います。

ただ、本人に冷静に丁寧に説諭するならまだしも、「今日、忙しいのに学校に呼び出されて、本当に恥ずかしくて情けなくて仕方なかった。おまえをそんな人間に育てた覚えはない。なんてことしてくれたんだ、まったく。」なんて子どもを頭ごなしに叱ったら、子どもははたしてどんな気持ちになるでしょうね。その子は、心の底から反省もしないし、いい方向に絶対育たないと思います。

一方で、帰宅した親が子どもに何も言わないで、いつも通りに明るくふるまったとしたら、こっぴどく怒られると思っていた子どもは考えるはずです。

「母さんは今日学校に呼び出されて、自分がしでかしたことは全部知ってるはずだし、先生にもいろいろ言われたらろうに、どうして何も言わないんだらう。」

子どもが、例えばこんな風にいろいろ思い巡らせることこその方が、私はその子に大いなる成長をもたらせるものと思っています。あくまでケースバイケースですが。

大人である我々ももちろん、子どもだって様々な失敗や過ちを犯します。教師も保護者も、時には烈火の如く厳しく叱ることも大切、優しく諭して言い聞かせることも大切、そして、時と場合によっては、わかっているのに見逃したり、知っているのに知らないふりをする無言の指導も効果的なことがあるはずなのです。

先日、バックネット裏で、高校野球の試合を観戦しました。

「いいピッチャーなんだけど、もう少し下半身使わないとだな。」
「あそこはバントだろ。」「監督を替えないと一生甲子園いけないね。」

周囲の皆さん、口々に言いたい放題。

野次馬根性は人間の性ですが、野球観戦するおじさん連中のつぶやきレベルで、世の中は、総批評家、総評論家、総解説者時代に突入しました。そして、自分が正論だと思ふことはとことんマウントを取りに来る、そんな風潮が益々加速しています、

私自身は、とても生きづらさを感じる世の中になってきました。少なくとも、物事がうまくいかなくとも、自分の方が全くの正論と思えども、決して感情的にならず、当事者の気持ちに寄り添い、様々な立場の考えに思いを馳せ、争いごとはしたくない。

だから、こう言われぬように頑張りたいと思うのです。

「どの面下げて」「どの口が言ってるんだ」と。